

平井尊士 (兵庫大学) 西田悦雄 (兵庫大学) 植田道成 (大阪商業大学) 志保田務 (桃山学院大学)
 山本順一 (図書館情報大学) 丹康雄 (北陸先端科学技術大学院大学) 岩井憲一 (滋賀大学)
 寺澤陽一郎 (エル・エス・インテグレイツ) 天羽将恵 (日本 IBM) †

1 はじめに

近年、答申[1]により示された情報教育の方針の転換に照準をおいた研究開発が活発である。この要因により、初等・中等教育機関における情報教育は従来のものだけでは対応は難しいものとなっている。

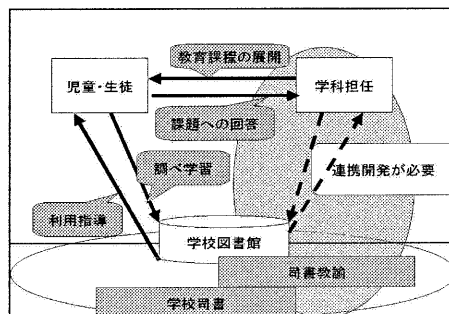
これに対応すべく学校図書館を活用した教育環境の場づくり、「メディアセンターソリューション」を提案する。またその具体的な構築への取り組みを提示する。その製品名を「メディアセンター」と[2][3]称し、PCを用い①インターネット接続サーバ②ユーザが自由に利用できる教育コンテンツボックス③この②と連携した学校図書館の3機能を実現する。これらを相互的に連携させることで情報教育が可能となる。

2 本研究の背景と目的

情報教育は、活発に議論されている[4][5]。中心は、新教科『情報』[6]、インターネット接続、教室整備、デジタル教材の開発である。さらに、我々は、情報教育とは距離のおいた存在である学校図書館を含めたソリューション(情報教育の場、「メディアセンター」)の提案をする。学校図書館は、情報サービスの中心的な役割を持つが、機能的には従来型の資料情報を基盤とし、校内では単独的存在であった。そこで、インターネット接続サーバの構築と学校図書館メディアを教材・情報源として有効活用できるコンテンツボックスの機能の開発・定着を図る。なお発表上ではその関連機能である「インターネットサーバ」の構築報告も加える。

①概要②問題点③システム④評価⑤考察・問題点

2. 1 ソリューションプロジェクトの概要



志保田・平井は(図1)に示した[2][3]。

2. 2 関連研究と提案

本提案は、メディアを有効に活用し、司書教諭の指導力をもあわせる。つまり情報通信基盤の発達に伴い、情報の収集・選択能力(=情報検索力)が求められ、その役割を担い[7][8]、情報教育[9][10]と融合する。

3 本システムを構築するための問題点

3. 1 現状と問題点

環境は、構築予算の制限のため小規模な整備である。単独で、総合運用形態は取りにくい。<問題点>①単独の機能②維持管理のコスト(人材・時間・予算)が大③目的システムの課程の理解、操作が困難

3. 2 解決方法

指標(別掲)と全体像(4. 1提示)が必要である。※コンピュータ教室、普通教室、特別教室、多目的スペース、学校図書館において総合的な運用が可能。

①答申②場③管理④コスト⑤コンテンツ利用自由度

† Media Center Solution for Beginning and Intermediate Users

Takashi Hirai, Etsuo Nishida, Information Processing Center of Hyogo Univ.

Mitinari Ueda, Osaka University of Commerce Tsutomu Sihota, Momoyama Gakuin University

Junichi Yamamoto, University of Library and Information Science

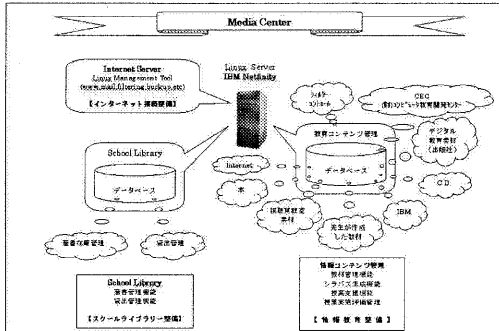
Yasuo Tan, JAIST(Japan Advanced Institute of Science and Technology,Hokuriku)

Kenichi Iwai, Siga University Youichiro Terasawa, Ls.integrates Masayoshi Amaha, Japan IBM

4 試作システム：構築システムのモデル

4.1 構築システムの機能の概要

モデル校で、評価し、開発にフィードバックさせ、完成度の高さを目指す。①フィルタリング(サイト(ページ)へのアクセス制限+通信プロトコル制御による拒否)②デジタル教育コンテンツ(学校図書館メディア)の利用③図書館の3機能を、相互的に連携させる。(図2)



4.2 機能の実現

通信基盤を重視し、PC UNIX を用い、図書館機能にも対応する。管理者は技術的経験・スキルなしに行える。利用者は、視覚的な操作性に富み、目的重視である。

<http://www.elics.com/>参照。(図3)



5 評価実験

5.1 評価の詳細<実験方法>

機能評価を行うが、HW等の性能は行わず、指標と要望を組込む。現段階では次の評価を行っている。①利用満足度(親和性等)構築全体とメール環境②授業内でのPC利用の割合。尚、コンテンツボックス(学校図書館メディア利用)機能の構築はSGML/XML等ブラウザをベースに構築中である。

6 まとめ(考察)と今後の予定

本研究は、改革をにらんだ「メディアセンター」ソリューションの開発の中で、枠組みと経過を示し、問題解決学習へのプラットフォームを実装しようとする。統合的な管理運用から学習展開までのシステムをめざす。但し、司書教諭の専門職性や情報教育の教諭の職性の問題点は考えられる。今後の開発課題としては、②③の実装と①②③の統合的運用の方法に対処することである。

おわりに

本研究は、1つの専門領域で完成するものではなく諸々の領域を結集し情報教育に取り組む必要がある。

尚、ネットワーク教育製品(Netprep[11](3comJapan))を参照いただきたい。

謝辞

議論に参加していただいた桃山学院高校中村静子教諭、関西学院高等部崎田利枝教諭、旺文社など多数の方に感謝いたします。

参考文献

- [1]情報化の進展に対応した教育環境の実現に向けて—最終報告—[抄](1998.8.15)
- [2]志保田務・平井尊士「学校図書館と『情報化』の一考察」図書館界 2000.7.p124-130.
- [3]平井尊士「学校図書館の情報教育的活用」情報メディア学会 2000.6.p7-10.
- [4]教育工学会における活動
- [5]情報処理学会(コンピュータと教育研究会)
- [6]文部省『高等学校学習指導要領解説情報編』
- [7]司書教諭講習等の改善方策について(報告)(1998.2.25)
- [8]平井尊士[ほか]「学校図書館における「情報化」の現状と課題」日本図書館情報学会 2000.5 p51-54
- [9]「インターネットの教育利用」『情報処理』2000,Vol.41.No.4,p446-451.
- [10]小学校学習指導要領[抄]文部省告示第175号
- [11] <http://education.3com.co.jp/netprep/>